



題字 小澤信三郎 名誉会長

# 航 跡

第37号

早稲田ヨットクラブ

平成12年7月発行

発行者・理事長 守屋光雄

編集・広報室 米田晴二

## 小澤さん、名誉会長に 新会長、石井章夫氏に決定

早稲田ヨット部OB会(早稲田ヨットクラブ)会長に石井章夫氏が就任されました。1953年OB、69才です。2月の総会で会長交替が決定し、長老OB17氏のご意見集約、理事長招集の選考協議を経て、小沢名誉会長推薦により決定に至りました。ご意見をいただいた長老OBは山田金次郎、永元作一、長医秀明、堀江喜三、金

子四郎、渡辺晋、野木良一、林忠治、久留島三記男、横田豊、清水正博、加藤久直、宮本健次郎、湯沢一清、伊井邦彦、秋山昭、石井章夫の諸先輩です。「年齢順にこだわらず、活躍できる60代から選出すべし」とのご意見が大勢でした。理事長はこれを受けて、長老諸氏のご意向を踏まえて選考委員会を組織し協議しました。委員会は理事長招集により、米田晴二、松本富士也、杉山博保、舟岡正、武村洋一、加藤文生各氏。守屋理事長、浜田理事、石合講師が立会しました。この協議の結果、石井章夫氏を候補とし、小沢名誉会長の推薦をいただき、5月末にご本人の承諾があり決定致しました。

### 会長就任ご挨拶

会長 石井章夫(昭28年OB)

#### 1) 就任にいたる経緯。

今回理事会の推薦と小澤前会長からの直接のご説得を受け、早稲田ヨットクラブの会長をお引き受けすることになりました。私としては思いもよらなかった事態でただただ困惑致しました。2月の総会で次期会長に伊井先輩のお名前が出ており、その実現を喜んでおりましたのに、同先輩が健康状態が悪く入院されたということを知りました。その後、私としては若い候補者にお願いするのがよいと期待しておりましたが、計らずも上と下からのサンドイッチの目にあってしまいました。小澤会長直々のご命令で止めを刺されました。お引き受けするからには諸先輩のご期待を裏切らないよう、後輩諸君に一層の活躍の場をつくるよう、光輝ある早稲田ヨット部をますます立派なものにするよう努力しなければいけません。皆様の力強いご協力をいただきますようお願い致します。

#### 2) 前会長に感謝と敬意

まず私は小沢信三郎大先輩に厚く感謝の気持ちを捧げ、ますますの長寿をお祈りしたいと思えます。昭和の始めから早稲田ヨット部のキャプテンとして、今日まで70年近く一貫して名実共に指導者としてご尽力いただいたことに深く御礼申し上げ、大きな尊敬の念を捧げます。今後も大所高所からのご指導をいただきたいと存じます。

#### 3) OB会としての基本

早稲田ヨットクラブは「ヨット部OB会」として、現役ヨット部に対しあらゆる支援を行うのが基本的役割です。ヨット部学生に対して広範囲な指導助言を行うと共に経済的支援も行っており参ります。私たちは皆、若い時代、諸先輩の指導とお力添えのお陰でヨットを通じて心身の鍛錬を致しました。この恩返しを後輩に対して行うのだと考えています。この得難い縁を大切にするためにOB間の親睦交流を活発にしたいと存じます。只今理事諸君が新しい名簿作りを準備しているのも、最も大

事なことだと考えます。

#### 4) 大学の方向性との整合

大学は時代と社会の動きに対応して大きく変わろうとしています。その動きの中での大学スポーツの在り方は従来と違って一本道ではないようです。大学によっていろいろな特色が出てくることを予感させます。我が早稲田大学は積極的にスポーツの大学教育への取組みを打ち出しております。私たちは海のスポーツを通じて、青少年教育に貢献する役割を担っております。大きく変わって行く早稲田大学の動きを敏感に受け止め、我々からの提案もさせていただくようにすべきだと思います。

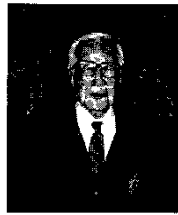
#### 5) 学生ヨット界での交流重視。

日本のヨット界は時代と共に大きな発展を遂げてきました。その中で大学ヨットの果たして来た役割は非常に大きいものでした。現在、全日本学生ヨット連盟に加わっているのは約200校、関東学生ヨット連盟では50校になっています。大きな組織になって問題も多々あるようです。昨年の早稲田は全日本では5位、関東では優勝しております。競技での頂点を目指すため、どのチームもあらゆる知恵と努力を重ねています。私は学連組織での貢献も重要であると思えます。また伝統ある有力大学OBクラブとの交流も重視致します。交流を通じて知恵を出し合い、全体の流れを汲み取りつつ、ひいては現役への気配りに疎漏のないようにしたいと思います。

#### 6) 理事会中心の運営

前会長が、あまりに大物だったので、私が具体的に何をどうするか戸惑うばかりの昨今です。しかし我が早稲田ヨットクラブには立派な「理事会」があって、20年来、毎月決まった日と場所で運営の相談を継続しております。50歳代の理事長が若いOBの理事諸君とクラブの活動を推進しています。この力強い組織を信頼しております。全てのことを皆の悩み皆の喜びとしてゆくために、この理事会を中心に500人の力を結集して行こうではありませんか。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 小澤信三郎氏、会長引退



本年度OB会総会（2月18日）の冒頭、小澤会長は高齢のため引退する旨、突然表明されました。同氏は早稲田ヨット部の創立以前からセイリングに親しみレースにクルージングに打ち込み、また幾多の人材を養成されました。日本のヨット界の名物男として海外にも知られた存在でした。1976年、モントリオール・オリンピックの監督をされ、選手団長でもありました。1982年には日本ヨット界への貢献に対し勲5等に叙せられ双光旭日章を受賞されました。永年、日本ヨット協会の要職を歴任、日本学生ヨット連盟では昨年まで会長として学生を指導されていました。ご高齢にもかかわらず、つい最近までゴムボートに乗って現場でのレース指導に当たられるなど余人に真似の出来ない指導者でありました。

総会では永元先輩の発議で「小澤さんの功績をたたえ、規約には無いが名誉会長に推薦したい」ということとなり出席者全員賛成、決定いたしました。

### 石井章夫氏の横顔



海洋少年団出身、1952年ヨット部主将、1987～97（10年間）体育実技講師、また近年、各OBレースの早稲田のキャプテンとして他校との交流に尽くされ、早稲田の顔になっている。特にA級12フィート・デインギーへの思い入れが強く、三戸浜合宿所にあった痛んだ2隻を生き返らせた。作業に当たった岡本造船所の皆さんも大変感銘を受け、喜んで作業してくれた。バブルの時代のこのNEWSは「舵誌」にも紹介された。この経過で早稲田に「A級デインギーを保存する会」を設立、A級を愛する仲間がたくさん協力した。復活第1回レースでは早稲田の1隻を明治に貸して、早・日・明/3大学OB戦を実現し、ついで慶應・立教・中央・法政・成溪などがぞくぞくこの動きに参加してレースをするようになり、1996年からは九州・関西・琵琶湖・東北・北海道の諸君も参加する全日本選手権になった。大成建設OB。

## 早稲田ヨットクラブ理事会名簿（平成12年）

○会長 石井彰夫 名誉会長 小澤信三郎 副会長・顧問 (未定)

**理事長** 守屋光雄  
**理事** 事務局長：鈴木光宏、会計：野口正文、濱口裕、石田晋也、石合幸彦、岡戸義一、原田浩二、戸枝隆也、小池充郎、槐島健、原健一郎、星野禎介、畠山知己  
**実技講師・監督・コーチ** ~~実技講師~~：石合幸彦  
 大学ヨット部監督：小池充郎、コーチ：原健一郎、畠山知己、山本剛史、池田潤、学院ヨット部監督：槐島健  
**会計監査** 米田晴二、木村光成

### 年度委員

～27	米田晴二、濱田裕	37	原田武	47	早川恒男	57	石渡誠二
28	石井章夫	38	出基人	48	杉井謙治	1	川原康嗣
29	安藤 夫	39	宮山邦夫	49	三塚正文	2	清水宏和
30	千葉栄作	40	木内博太郎	50	藤井達也	3	槐島健
31	舟岡正	41	森昭	51	冬至克也	4	川島太
32	中田忠雄	42	金刺高雄	52	川瀬修平	5	石井慎二
33	加藤文生	43	冬至真也	53	野口正文	6～9	畠山知己
34	並木茂士	44	須藤桂司	54	小川寛樹	10	小畑和之
35	池田雄五	45	大矢木一	55	白石裕之	11	田中康夫
36	原田弘	46	藤田亨	56	風間利也	12	山崎頭

### 活動推進者

	ヘッド	担当		
早慶OB戦	守屋光雄	原田浩二	小池充郎	畠山知己
10大学戦	木内博太郎	濱田裕	岡戸義一	諏訪康弘
Aクラスデインギー	千葉栄作	中田忠雄	加藤文生	守屋光雄
4大学戦	占田秀	松下益暢	大阪在住者	
稲魂	濱田裕	米田晴二	石田晋也	畠山知己
OB名簿作成	石田晋也	鈴木光宏	女子マネ	年度委員
広報 航跡	米田晴二	岡戸義一	槐島健	
会費納入促進	野口正文	石合幸彦	戸枝隆也	年度委員

### 体育実技講師に石合氏

藤井達也講師は勤務先横浜市立大学での兼職自粛方針により、辞任されました。藤井氏は理事会に対して「今後の実技教育への協力姿勢の在り方など」大学教育専門家ならではの適切な提言をしていただいた。後任講師には、1967年OB・石合幸彦氏が決定しました。昨年のOB諸氏の現場支援の効果も出てか、今年を受講生人数が増加に転じました。学生部員も少ないことでもあり、OBのみなさんのご協力をお願い致します。石合新講師は新しい実技教育の形を構想しておられます。



石合幸彦氏はエスピー食品時代、山崎現会長を助けて種々の事業を経験した。現在は各種機械の開発製造をしている。オーシャンレースの経験豊富。「スーパー・サンパード41」で毎週、海に親しんでいる。

### 転換期のヨット実技

講師 石合幸彦

前任の藤井達也OB（横浜看護短大教授）が他校の講師兼任は問題がある為、実技講師は継続できないとの事で、昨春秋（99年）、大原前理事長より私に協力依頼がありました。2週間のブランクを考えますと、個人的に余力は無く、お断りしましたが、押し切られ、半強制的に引き受ける結果となりました。ただ、引き受けた以上は微力ながら全力を尽くす所存です。

50年以上も継続しているヨット実技も文部省の「体育実技の選択科目化の影響」をもちに受け、近年は定員割れの状態が続いています。完全に売り手市場から買い手市場に転換しています。ヨット部の部員の減少傾向、大学の緊縮予算傾向等々、大きな転換期にさしかかっています。「魅力有るヨット実技」を今後どの様に方向付けて行くか、大事な時期だと思われま。

新任で全く手探りの状態です。学生ヨット部員の少ない現状では、OBの協力無しでは、実技の運営は不可能な状況に成っています。せつにOBの皆様の協力をお願い申し上げる次第です。

前任の石井講師、安藤講師、藤井講師の皆様から、心の行き届いたご指導頂き有り難う御座いました。心より感謝申し上げます。

### 12年ヨット実技スケジュール

- 7月23日 艇陸送 稲魂号回航
- 7月24日～29日 実技A
- 7月29日～8月3日 実技B
- 8月4日 艇陸送 稲魂号回航

南房シーパレス（下隠居） ☎0470-57-2011  
 小島合宿所 ☎0468-88-0262  
 早稲田大学体育局 ☎03-3203-4351

### ヨット部OBの皆さんと共に

理事長 守屋光雄（昭和40年OB）



2000年の節目に理事長の大役を担うことになりました。社会もヨット部を取り巻く環境も大きく変わりました。早稲田ヨットクラブも500人近くになりました。年代構成も90代から20代、親・子・孫3代に亘ります。しかしこの大きな組織が一つの力に纏まって、目指すところを実現しているかと言うと、必ずしもその過程を歩んでいるとは言えないように思えます。進取の精神で組織力を発揮する早稲田の風土が稀薄になっているようです。皆さん、卒業以来それぞれの分野で立派な人生を送っておられると思います。我々、500人にはヨットに青春を燃やした強い絆があります。いまもう一度、手を携えて早稲田ヨット部のために意欲を傾けようではありませんか。

現役学生たちの状況も大きく変わっております。部員数が少ない一方、ヨットの技術はハイテク化され、大変高度なテクニックが求められています。IT革命の利点も現実のものとなってきました。ヨット部のレース結果を若いOBたちはインターネット上で情報を共有して応援しております。

あらゆるスポーツ分野でリーダーとして存在したWASEDAの地位は、もう何年も崩れているようです。ヨット部は昨年は16年ぶりに関東インカレで優勝を果たしました。しかし全日本では常連校に今一步及ばず5位でした。栄光の土座に挑むために早稲田ヨットクラブの全ての力を結集しましょう。

私たち役員は2000年度の活動方針を次のように決めて取り組んでいきます。

- \*全OBの参画意識を高め、クラブライフを豊かにする。
  - \*現役ヨット部を強化する経済的、技術的、精神的援助を継続的に行う
  - \*年会費納入者数の増加に努力する。
- 皆さんのご協力をお願い致します。

(年度委員のお願い) 別掲(2頁)の表をご参照ください。

規約改正により、各年度に委員を決めることになりました。お願いする役割は、その年度の「キーマン」として次のことです。

- 1) クラブ連絡の要になっていただく。
  - 2) 同期会開催の推進役になっていただく。
  - 3) OB会費の徴収推進役になっていただく。
  - 4) クラブへの提言・要望発信の窓口になっていただく。
- 各年度の消息など、事務局へご連絡ください。よろしくお願ひします。

.....  
 会費納入、自動振替の手続き  
 年会費は2万円です。未だ手続きの済んでいない方、是非ご協力ください。申し込み用紙は、下記に請求してください。  
 ・・ご寄付の窓口  
 ・早稲田ヨット部へのご寄付も承ります。大学総長室募金課への「指定寄付」の手続きを代行致します。税の優遇措置を受けられる領収書を、大学から直接送付していただきます。  
 ・〒184-0011 小金井市東町3-2-9 野口正文  
 0422-33-4163 (FAX共用)  
 ・早稲田ヨットクラブ口座  
 ・第一勧業銀行・日本橋支店(普) 1445739  
 .....

### ヨット部1999成績

#### 関東学生ヨット選手権大会 優勝

(99年10月2～11日/森戸海岸沖)

強風・順風の条件下でのレースであった。470/2位、スナイプ/2位で、総合優勝を獲得した。

(470) 日大172、早稲田173、中央252、法政、慶応、関東学院、青山学院、

(スナイプ) 関東学院262、早稲田289、日大301、中央、法政、慶応、神奈川、

(総合) 早稲田462、日大473、中央559、関東学院、法政、慶應、明治、

最終の470超微風レースで日大の1点の逆転を許したのは残念だったが、各場面で日大を圧倒した。全日本チームとの合同練習などを行い、質の高い練習を重ねた成果であった。このところ、中央、法政が安定した力を発揮し始めた。注目に値する。

#### 全日本学生ヨット選手権大会

(99年10月31日～11月3日/宮城県名取市)

初日、強風中止のあと、風に恵まれないレースになった。健闘5位。

(470) 日大243、立命館251、福岡252、同志社263、早稲田323、鹿屋328、関東362、中央376、慶應、……

(スナイプ) 福岡163、同志社233、日大248、法政299、関東405、早稲田406、立命館407、……

(総合) 福岡、日大、同志社、立命館、早稲田、関東学院、……

折角の東北で、豪雨につぐ無風状態という妙味にかけたレース展開となったが5レースまで行った。結果は従来からの強豪チームがそつなく好位置を占めた。出場数は各クラス23チーム、両クラス出場は16校である。

早慶戦 勝利  
同志社戦 470勝ち/スナイプ負け/総合、引き分け  
東京6大学 優勝  
春・関東インカレ 総合5位

### 卒業OBの就職状況

H11/12年度の状況をお知らせします。

H11; 田中康夫 (大成建設)、小出将平 (電通)、中村健 (三菱商事) H12; 山崎顕 (NTT)、吉田祐介 (東京海上)、3人は5年生。

……なお今後、苦戦する場合もあるので、OB皆さんの関心と協力をお願いします。

### 規約改正 (要点)

現行規約は1978年制定したものでした。明確化の必要がある項目がでてきましたので、総会議決を経て改訂を行いました。

- 1) 活動内容を明記した。
- 2) 役員に「年度代表」を新設した。
- 3) 体育実技教育への支援を明確にした。
- 4) 監督コーチの項目を新設、位置付けを明確化。
- 5) 年会費納入の年齢に上限を設けた。(70才)
- 6) 特別基金運用規程を新設した。
- 7) 慶弔規程を整理明確化した。

……この規約改正作業は、特別委員会を組織して細部に亘る検討を行いました。他の大学の規約なども参考にしました。委員は木村光成、守屋光雄、野口正文、鈴木光宏の4名。理事会での審議を経て総会に提案し決定致しました。この規約は新たに発行する名簿に記載致します。(99理事長・太原)



祝盃!! 関東インカレ優勝・鏡割り

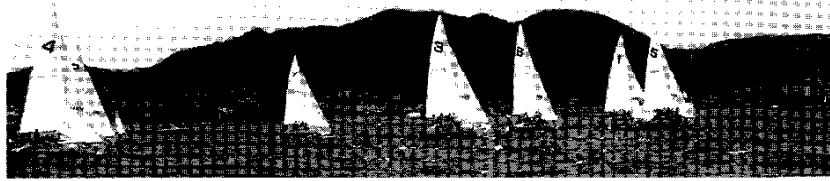
### A級デインギー新艇新水

復活A級が全国で盛んになってきて、早稲田の古艇に買い手がついた。1艇は和歌山のマリーナに記念艇として。もう1艇は西の方の某大学OB会。そして我がチームは、A級大好きOBたちが資金を出し合い、新艇を建造した。4月9日、進水式。以後、土曜日ごとに練習をしている。

新艇協力金3万円協賛者; 加藤久直、河村雄三郎、石井章夫、金澤健、岩本誠、浜田裕、千華栄作、舟岡正、安井淳、中田忠雄、加藤文生、木村光成、守屋光雄、滝良貞、北島武夫、武藤忠、/船具寄付; 倉谷誠一、/2万円会費; 前記諸君、石川武男、松本富上也、松島弘行、木内博太郎、…… (以上4月現在)

全日本選手権は『八景島』レース; 7月1日(土)～2日(日)正午まで、1日夕方にパーティ。詳細お問い合せは……

A級デインギー保存会、事務局; 加藤文生  
TEL: 03-3442-6231



葉山沖の熱戦

## 早慶戦60回記念OBヨットレース

6月4日、葉山沖で、ニッポン・チャレンジの練習艇、Y23、各4艇で、熱戦展開。快晴に恵まれ、風も安定して理想的なレース日和となった。4回戦を2勝2敗で引き分けとなった。

会場には両チームのクルーザーが応援に出動、1日喚声にわいた。

レース終了後、懇親パーティー。応援部OB石川氏のリードで両チームのエール交換でおもいっきり盛り上がった。

(解説) 早稲田と慶応が対抗ヨットレースを開始したのは1935年。来たる8月26・27日が60回になる。横浜港埋め立ての影響での中止、出場資格問題での意見不一致などで実施できなかった年があった。今回双方OBの熱意が盛り上がり記念大会を盛大に実行出来た。1回戦ボロ負けとなりどうなることかと心配したが、2、3回戦を連勝、勝ったと思ったが最後に逆転され、引き分けとなった。前夜祭も大いに盛り上がった。早稲田と慶応がどうして仲がよいのか、大隈老侯と福沢先生との密接な関係を米田が講釈した。大学のエクステンション講座からの受け売りであった。

〈戦年の中絶〉

(早稲田・参加者) 永元、秋山、石井、佐伯、河村、安藤、米田晴、足枝、松本、松本夫人、千葉、浜田、鈴木、鈴木夫人、遊佐、浅山、杉山、舟岡、日色、武村、中田、石田、木村、守屋、木内、松島、山中、岡戸、岡戸夫人、石合、石合夫人、千津井、金刺、佐々木、大矢木、福島、原田、藤田、杉井、平戸、千把、新沢、三塚、早川、加藤、青木、野口、大原、斎田、坂爪、白石、白石夫人、戸枝、川原、米、島山、

両校で120人以上の参加で大成功！実行委員の皆さん、有り難う。



中央：早稲田・石井会長、慶応・棚町会長  
両脇：早稲田・松本実行委員長、慶応・小田桐実行委員長

## 早稲田スポーツ100年記念誌

2000年10月21日の早稲田大学創立記念日の刊行日標で、記念誌編纂作業が進んでおります。ヨット部にもその頁割り当てがありまして、米田晴二が担当して原稿・写真・資料を提出致しました。(昨年9月締切り) 2000年5月現在、体育局と各担当者で校正作業中です。

ヨット部には既に「50年史」がありますが、その後17年を経過しています。また補正したい部分もありました。迫り来るヨット部創立70周年のことも念頭に置きながら作業を致しました。

終戦後の部分を加藤久直氏、外洋ヨット部分を石合幸彦氏、昭和最後期から平成部分を川原康嗣氏、また全体の記録整理を金刺高雄氏にお願いしました。小澤会長、堀江喜三氏、久留島三記男氏、加藤文生氏、守屋光雄氏、大原義昭氏、前記4氏他の方々にご指導・ご点検いただきながら進めました。完成原稿をヨット部長・近江幸治

教授にご閲覧いただきご承認いただきました。

今回は体育42部全体の作業のため、頁数に限りがあるのと、全体の流れをバランスを取るために、幾つかの逸話をいれられなかった恨みはありますが、それはまた70周年か、以後の後輩諸君の手に委ねたいと思います。

現在、早慶ヨットレース60周年に際しパンフレットを共同制作しております。これにはOB全員(故人も含む)の年代別名簿(氏名のみ)を準備しています。この名簿と今回のヨット部略史を合わせて小冊子とする企画も持っています。

完成品を御覧になって、ここは違うとか、これが抜けているとか、お気づきのことがありましたら、是非お知らせください。後輩諸君に伝え、次ぎの機会の修正に準備致します。2000年10月の刊行をお楽しみに。

(広報担当；米田晴二)

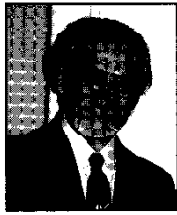
訃報

大切な先輩が、次々に世を去られた。

藤村紀雄さん (昭和13年OB)

平成12年3月他界。

昭和12年のベルリンオリンピックにコレ級で出場した。現役学生だった藤村を、兵役で参加出来なくなった小沢信三郎OBが、つきっきりで特訓して予選を勝ち抜いた逸話がある。早稲田で最初水泳部に入ったがヨット部に転ぶや1年中ヨットにのり続けた。早慶ヨットレース第1回の時の主将であった。ベルリン・オリンピックはバルト海キール湾で7レース。25艇中22位だったが、外国勢から多くのことを吸収した。ベルリンでの開会式での、ヘンデルのオラトリオ『メサイア』から『ハレルヤ』3000人の大合唱の荘厳を良く語った。大柄な身体と温顔でヨットを愛する若者たちに接していた。



癸生川 (けぶかわ) 正安さん

(昭和18年OB)

平成11年7月他界。

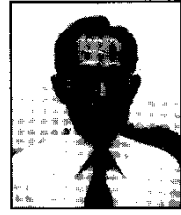
旧姓・黒川さん。戦争の時期、昭和17年のヨット部主将だった。大学でも軍事訓練が実施される時代。「あんなことは兵隊になったら出来る、今やることはない」と言い、時に流されつつあった学友たちと対立した。硬骨漢というより合理主義者であった。当たり前前のをきちんと言われるので後輩には厳しく受けとられた。昭和57年、早稲田ヨット部50年史が出来たとき、その作業をした舟岡と米田を上野精養軒に招き「君達は粘り強いねえ」とねぎらった。本当に嬉しそうだった。



田原正信さん (昭和15年OB)

平成11年7月他界。

西宮でヨットに親しみ、早稲田入学と同時にヨット仲間たちとヨットクラブを作ろうとしたところ、早稲田にはすでに小沢兄弟がヨットクラブを作っていることを知る。合流して早稲田のヨット部は一気に大所帯となった。合宿では関西弁の方が優勢であったという。体育会公認の部にするために努力し、昭和14年、参加したレース (団体・個人) 全てを優勝し、ヨット部は体育会に加入が実現する。昭和12年のベルリンオリンピックを目指し、スター級を建造した時、当時の費用は家を数軒建てられる位の金額だった。ボート部先輩の造船所で卒業出世払いで建造してしまうが、金はない。部員の知恵を出し合い、日比谷公会堂でのN響演奏会を企画、部員全員でキップを売りまくり大成功。一気に借金を返済して卒業した。オリンピック・スター級予選では敗退したが、慶応など先発ヨット部は目を見張って驚いたという。

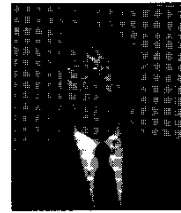


昭和47年、稲龍が日本一周で関西に来航したとき、西宮の試乗会に参加された。常に笑顔で後輩に接し、また、きっぱりと方針を示し後輩の力を引き出した。50年史P56に「部員に与う」の檄文がある。

新名敬一さん (昭和14年OB)

平成11年6月他界。

初期全日本制覇の時代のメンバー、小柄でおとなしい文人タイプ。江の島でインカレの後輩たちを見守り、短歌によんでおられた。NHK短歌会長老でもあった。



ひるがえる早稲田の旗のそばにより  
レース気づかうOBわれも  
数十の帆の重なりが遠く見ゆ  
沖のレースは熾烈なるべし  
レース終え艇よりあがる選手らの  
顔は光りて潮焼けをせり  
明日に備え艇の整備に余念なき  
若者たちを爽やかに見つ  
行き来する若者たちはたくましく  
我を圧する夏の群像

\*\*\*\*\*  
謹んでご冥福をお祈りしましょう。

※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※※

ご意見をお寄せください。  
石井章夫  
〒180-0012 武蔵野市緑町2-1-5 ☎0422-54-3806  
守屋光雄  
〒154-0001 世田谷区池尻3-28-21 ☎03-5481-6610  
米田晴二  
〒234-0055 横浜市港南区日野南6-30-11 ☎045-845-9373

レース・事業日程、2000年  
早慶戦60回記念OBレース  
6月3日/4日、葉山マリーナ、  
10大学OBレース  
6月10/11日、諏訪湖、  
A級デインギー全日本  
7月1・2日、八景島、  
4大学OBレース  
10月7・8日、西宮、  
関東ヨットメンズクラブ  
11月8日、第一ホテル、  
.....  
大学体育実技教育  
A班、7月24日~29日、岩井海岸下隠居  
B班、7月29日~8月4日 ”